

東海地区における 連携医療確立に向けての取り組み

平成18年度経済産業省委託事業
「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」に関連して

東海ネット医療フォーラム・NPO
名古屋大学大学院医学系研究科

吉田 純

用語の定義

連携医療

≠

医療連携

主体が、患者・市民

主体が、医療機関

(新しい概念)

(病診連携、病病連携)

チーム医療の拠点形成

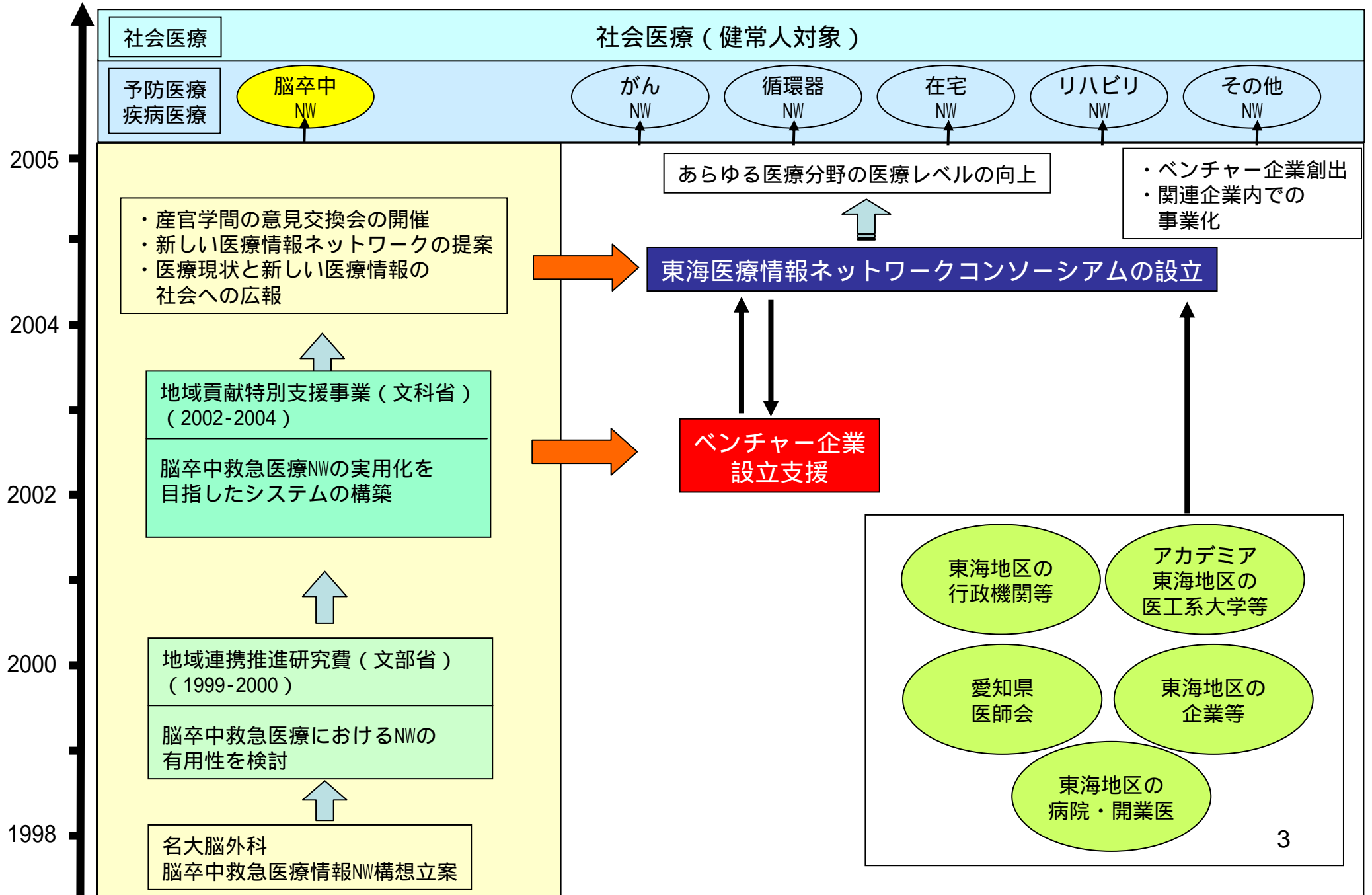
名古屋大学医学部脳神経外科及び関連病院の現状

病院数	108施設 その内訳 大学病院 1施設 基幹病院 62施設 その他 45施設
医師数	286名
入院治療患者数	19,179症例（平成17年） 脳卒中入院患者数 10,965症例 （うち手術件数 2,587症例）

医師・医療機関を結ぶ“ひと”のネットワークが古くから構築されてきた。

“ひと”のネットワークこそが、医療を行う際に最も重要な要素である。²

名古屋大学医学部脳神経外科の取り組み



東海医療情報ネットワークコンソーシアム

設立

- ・ 2004年9月

メンバー

- ・ アカデミア、医療機関、企業（トヨタ、中部電力、NTT、KDDI等）

目的

- ・ 社会が求める医療と高度な医療生活圏を確立

その為に

- ・ 医療と情報技術の癒合
- ・ 新しい医療情報ネットワークを提案
- ・ 医療の現状と新しい医療情報を広報
- ・ 医療の産業化を支援



2004年度東海医療情報ネットワークコンソーシアム事業
疾患別・病期別ネットワーク連携医療確立事業

2004年度東海医療情報ネットワークコンソーシアム事業 疾患別・病期別ネットワーク連携医療確立事業

- 疾患完結型医療の確立を目指して -

本事業のキーワード

病院機能の細分化

分業による効率化



- ・ 診療科の枠を超えた疾患別連携医療の創生
脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科等の協力体制の確立
- ・ 診療機関の枠を超えた連携医療体制の構築
大学病院や地域中核病院間の連携
- ・ 病期を超えたトータルケアの確保(シームレス医療の創生)
一貫したシステムのもとで、最良の医療に近づける
病状悪化時の医療対応がスムーズにできる
- ・ 在院日数の短縮

基盤情報ネットワーク
名古屋市内の100医療機関を対象に、セキュリティーの確保された閉域型光ファイバーネットワークを構築します。

リハビリ専門病院
急性期病院
かかりつけ医
療養型施設

ひかりネットワーク Max100Mbps
(中部電力: コミュファ)

分業による病院機能の効率化を実現します



連携ツールとしての
医療支援用携帯端末



連携ツールとしての 5
ハイメルク医療情報ツール

2004年度東海医療情報ネットワークコンソーシアム事業
疾患別・病期別ネットワーク連携医療確立事業

アップグレードするための取り組み

東海ネット医療フォーラム・NPOの活動

医療情報の標準化と共有化 (疾患別)



アップグレードの内容

- ・ 全国どこでも使える汎用性の確保
- ・ 国際社会を展望したシステム仕様の開発
- ・ 他地域・他疾患への応用

平成18年度経済産業省委託事業

「地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業」

課題名: **疾患別**地域医療情報連携システムの標準化及び実証事業

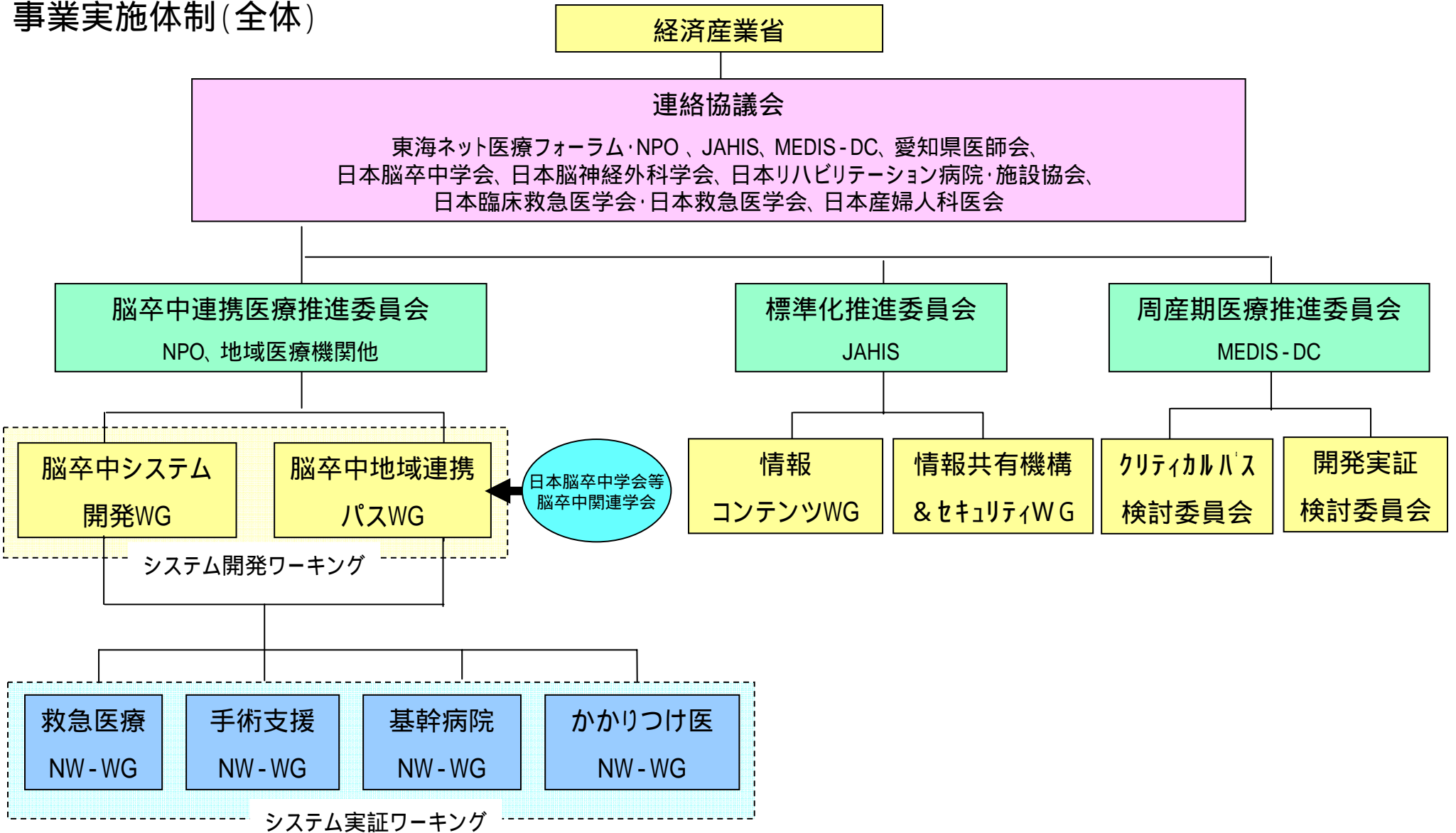
事業目的

少子高齢社会を支える新しい医療提供制度の柱として注目を集めている“医療機関間”相互運用性の効率化を通して、“**連携医療**”のあり方を、システム構築と医療の実践の両面から解説し、質の高い医療を考察する。

事業内容

- (1) 脳卒中医療を対象とする閉域型地域医療情報連携システムの構築と実証事業
- (2) 周産期医療を対象とする開放型地域医療情報連携システムの構築と実証事業
- (3) 地域医療情報連携システムの標準化及び普及事業

事業実施体制(全体)



NPO : 東海ネット医療フォーラム・NPO
 JAHIS : 保健医療福祉情報システム工業会
 MEDIS-DC : (財)医療情報システム開発センター

NW: ネットワーク
 WG: ワーキンググループ 8

地域医療情報連携システム連絡協議会

吉田 純 特定非営利活動法人東海ネット医療フォーラム・NPO代表理事
(国立大学法人名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経外科学教授)

[以下50音順]

有賀 徹 有限責任中間法人日本臨床救急医学会理事長、
有限責任中間法人日本救急医学会理事

栗原 正紀 有限責任中間法人日本リハビリテーション病院・施設協会

坂元 正一 社団法人日本産婦人科医会会長

篠田 英範 保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS)運営幹事

篠原 幸人 有限責任中間法人日本脳卒中学会理事長

田中 博 国立大学法人東京医科歯科大学情報医科学センター長

橋本 信夫 社団法人日本脳神経外科学会理事

原 量宏 国立大学法人香川大学医学部附属病院医療情報部教授

藤野 明男 社団法人愛知県医師会副会長

水野 正明 特定非営利活動法人東海ネット医療フォーラム・NPO理事

山田 恒夫 財団法人医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)
研究開発部長

山本 隆一 国立大学法人東京大学大学院情報学環社会情報学コース助教授

[オブザーバー参加]

経済産業省、厚生労働省、総務省

脳卒中連携医療推進委員会

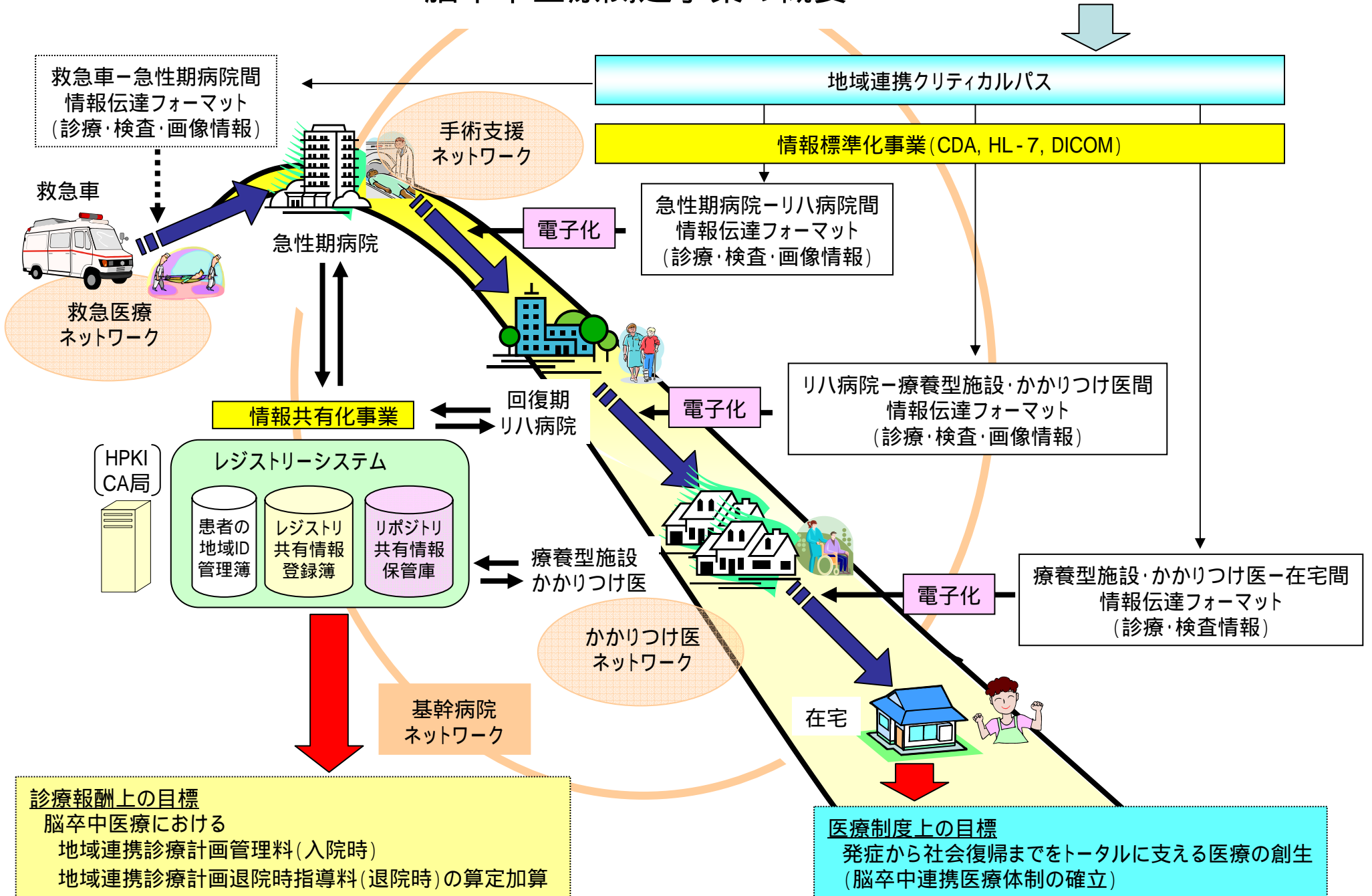
吉田 純	東海ネット医療フォーラム・NPO 代表理事
牧 靖典	愛知県医師会 理事
川村 益生	名古屋市医師会 理事
祖父江 元	名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学教授
宮地 茂	名古屋大学大学院医学系研究科 脳血管内治療学助教授
山田 和雄	名古屋市立大学大学院医学研究科 脳神経外科学教授
小鹿 幸生	名古屋市立大学大学院医学研究科 神経内科学教授
高安 正和	愛知医科大学 脳神経外科教授
佐野 公俊	藤田保健衛生大学 脳神経外科教授
才藤 栄一	藤田保健衛生大学医学部 リハビリテーション医学教授
鈴木 重行	名古屋大学大学院医学系研究科 リハビリテーション療法学教授
野口 宏	愛知医科大学病院 高度救命救急センター 救命救急科教授
水野 正明	東海ネット医療フォーラム・NPO 理事
堀田 龍一	東海ネット医療フォーラム・NPO 事務局長

[オブザーバー参加]

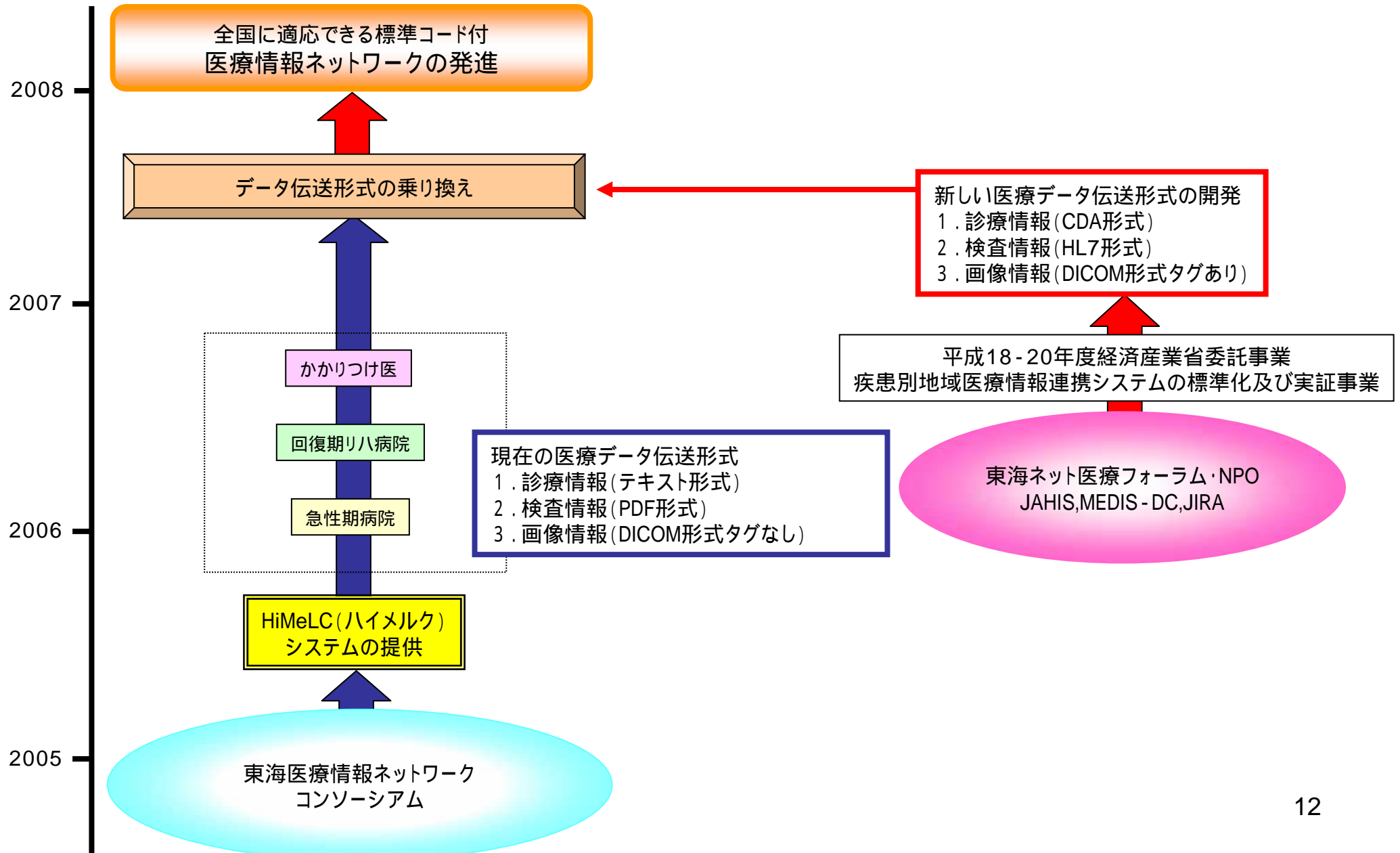
愛知県、中部経済産業局

脳卒中医療関連事業の概要

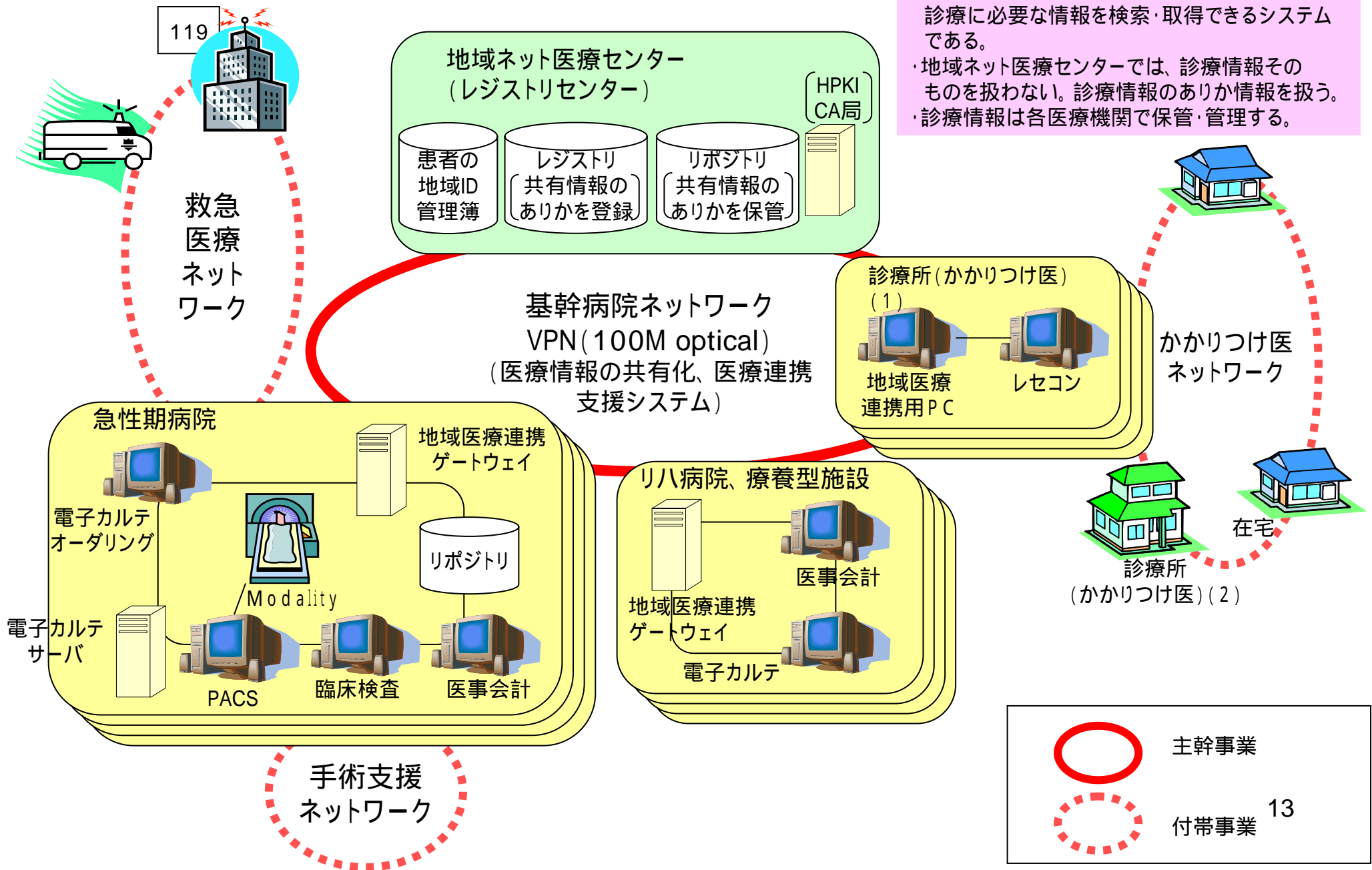
日本脳卒中学会等



東海ネット医療フォーラム・NPOが考える医療データの変遷



脳卒中医療における医療情報共有化システムの概要



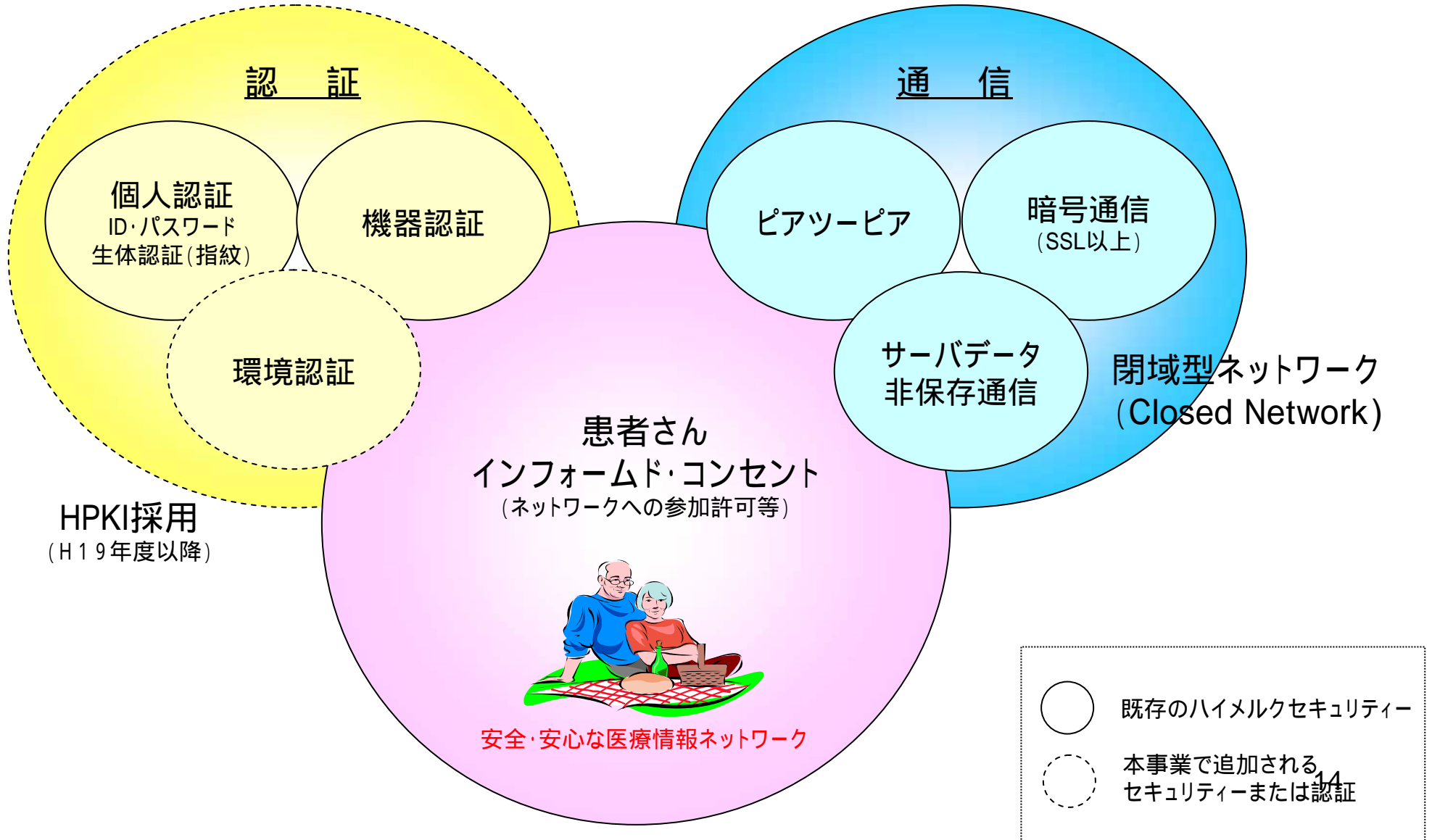
当該システムの特徴

- ・電子カルテの共有化ではない。
- ・これから脳卒中医療を行う医療機関の医師等が診療に必要な情報を検索・取得できるシステムである。
- ・地域ネット医療センターでは、診療情報そのものを扱わない。診療情報のありか情報を扱う。
- ・診療情報は各医療機関で保管・管理する。

○ 主幹事業

○ 付帯事業 13

システムセキュリティー (脳卒中医療関連事業)



当該事業で得られる成果 (地域医療のシームレス化)

- ・ 診療科の枠を超えた疾患別連携医療の創生
脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科等の協力体制の確立
- ・ 診療機関の枠を超えた連携医療体制の構築
大学病院や地域中核病院間の連携
- ・ 病期を超えたトータルケアの確保(シームレス医療の創生)
一貫したシステムのもとで、最良の医療に近づける
病状悪化時の医療対応がスムーズにできる
- ・ 在院日数の短縮



2004年度東海医療情報ネットワークコンソーシアム事業
疾患別・病期別ネットワーク連携医療確立事業の実現をサポート

当該事業を通して展望できる成果

- ・ 全国あるいは海外で利用できる連携医療システムの提案
- ・ 脳卒中以外の他疾患への応用
- ・ 医師をはじめとする医療従事者の教育の効率化
- ・ 僻地医療支援(医師の偏在の解消)
- ・ 医師とパラメディカルスタッフの役割分担の明確化
- ・ 一般市民への正確な医療情報の広報

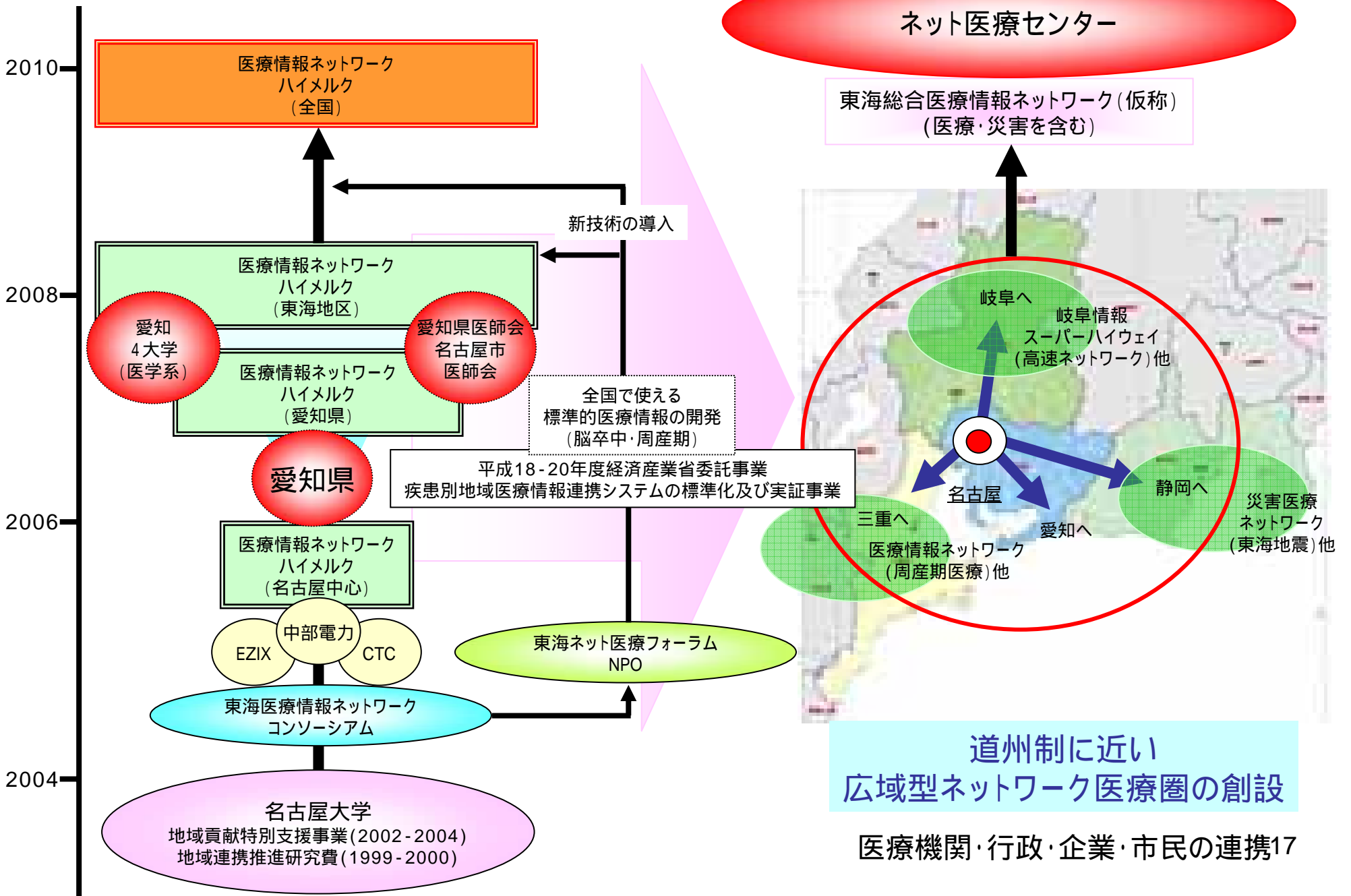


市民の医療への直接的参加の促進



患者中心の連携医療の確立

当該事業成果の他地域への展開



医療のIT化・ICT化における課題・問題点

- ・ “医”の基本はヒューマンコミュニケーション

医学・医療のIT化・ICT化はあるが、“医”のIT化・ICT化はない

“医”はあくまでもスキンツースキン(フェイスツーフェイス)であり、ITやICTは支援ツールにすぎない

この精神の希薄化に注意

- ・ 医師をはじめとする医療従事者の業務の増加(よい入力インターフェイスがない)
しっかり入力するには、余分な労力が必要
- ・ 患者IDに統一性がなく、施設ごとに異なっている(同一個人の判定がむずかしい)
- ・ 医療従事者間の職種による権限にルールがなく、施設ごとに異なっている
- ・ セキュリティーの確保がむずかしい(個人情報保護:ガイドラインの具体性が必要)
医療情報システムの安全管理に関するガイドライン などの励行
- ・ 連携医療体制確立のために必要な医療圏の再編に対する行政の壁、地域の壁

わが国の医療の将来のために

吉田 純

ご清聴ありがとうございました。

